

第112回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成20年12月12日(金)13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟

- 出席者：委員長 脇若（信州大）
 委員 坂本（岩松代理，鉄道総研），大崎（東京大），渡辺（IEEJ）
 増澤（茨城大），矢野（産総研），森下（東芝）
 幹事 村井（JR東海）
 幹事補佐 矢島（SMC）（記）

提出資料

- 112-1 第111回リニアドライブ技術委員会議事録案（矢島幹事補佐）
- 112-2 第91回（H20年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会報告（脇若委員長）
- 112-2-1 第91回（H20年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会 議題（脇若委員長）
- 112-2-2 平成21年度活動計画二次案（脇若委員長）
- 112-2-3 平成21年度新設・終了・報告書発行委員会 二次案 脇若（脇若委員長）
- 112-3 半導体電力変換・リニアドライブ合同研究会開催報告（森下委員）
- 112-4 リニアドライブ研究会（1月29日・30日）（村井幹事）
- 112-5 電気学会技術報告 第1140号「多自由度モータのシステム化技術」（矢野委員）
- 112-6 電気学会「優秀技術活動賞」，「特別活動賞」候補者推薦用紙（村井幹事）
- 112-7 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会 解散報告書（081212案）（増澤委員）
- 112-8 医用アクチュエーション技術の高度化周辺技術に関する協同研究委員会 設置趣意書（081212案）（増澤委員）
- 112-9 平成21年度（H21年4月～H22年3月）活動計画（2次案）（脇若委員長）
- 112-10 優秀論文発表候補（村井幹事）
- 112-11 研究会活動に対する補助金について（脇若委員長）
- 112-12 産業応用フォーラム 剰余金一覧（脇若委員長）
- 112-13 平成20年度リニアドライブ技術委員会活動報告（脇若委員長）
- 112-14 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会（ECD）活動報告（増澤委員）
- 112-15 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 112-16 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会（MLV）活動報告（森下委員）
- 112-17 第7回 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会 議事録（増澤委員）
- 112-18 第15回 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会（拡大幹事会）議事録（矢野委員）
- 112-19 第1回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録（森下委員）

議事

1. 議事録確認

前回の委員会の議事録案（資料112-1）が提出され、数箇所の修正し，承認された。

2. 報告事項

- 2.1 資料112-2，112-2-1～112-2-3を用いて，脇若委員長から第91回（H20年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会の内容が報告された。
- 2.2 資料112-3を用いて，森下委員から12月4日・5日に開催された半導体電力変換・リニアドライブ合同研究会について報告があった。
- 2.3 資料112-4を用いて，村井幹事から1月29日・30日神戸で開催されるリニアドライブ研究会について説明があった。併せて，村井幹事から「リニアドライブ技術委員会20周年記念」が提案された。今回（神戸）では行わず，来年東京で行うこととなった。また，その際小豆澤元委員長に「私の（リニアドライブ）」といった内容で発表していただくことが提案された。
- 2.4 矢野委員から12月3日に開催された産業応用フォーラムについて報告があった。当初の予定よりも参加者が多く，盛況であった。また，資料112-5を用いて，技術報告書「多自由度モータのシステム化技術」が11月25日に発行されたことが報告された。
- 2.5 資料112-6を用いて，脇若委員長から技術報告賞の推薦について報告があった。「多自由度モータとその要素技術（電気学会技術報告第1081号 平成19年3月発行）を推薦した。しかし，今回は部門

内で推薦数を絞るという意向により、今回は推薦を引き下げ、次年度改めて推薦することになった。

3. 審議事項

- 3.1 資料 112-7 を用いて、増澤委員から現 ECD 委の解散報告書案について説明があった。用語の確認、修正の指摘があり、次回 LD 技術委員会前に修正した案をメール配信することとなった。また、審議中に「心臓は 1W で動いている」など、興味深い話があった。
- 3.2 資料 112-8 を用いて、増澤委員から次期 ECD 委の設置趣意書案について説明があった。タイトルについて討議され、「医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会」となった。用語の確認・修正の指摘があり、次回 LD 技術委員会前に修正した案をメール配信することとなった。
- 3.3 資料 112-9 を用いて、脇若委員長から次年度の研究会・見学会等の活動計画について説明があった。合同研究会は相手のスケジュールに合わせる（脇若委員長に一任）ことが承認された。また、発行が遅れている前 MEL 委の技術報告書（平成 19 年 6 月発行予定）の状況について確認があり、矢島幹事補佐から執筆中である旨、回答があった。上部委員会（産業応用部門研究調査運営委員会）で未発行技術報告書の対応を検討しており、未発行の技術報告書は現技術委員会にペナルティが課せられる可能性がある（LD112-2-1 参照）。3 月中には発行するよう指示があり、来週中に状況を回答すると共に、次回 LD 技術委員会出版予定を改めて回答することとなった。また、1 月 2 月に出せるなら、前回分と今回分を一緒にして産業応用フォーラムを開催すればよいという意見も出た。
- 3.4 資料 112-10 を用いて、村井幹事から優秀論文発表賞の候補について説明があった。高得点者から推薦することが決定。
- 3.5 資料 112-11、112-12 を用いて、脇若委員長から研究会活動に対する補助金及び産業応用フォーラム剰余金について説明があった。補助金の使用範囲や領収書の有無について、本委員会には問題がないことを確認した。

4. 各調査専門委員会活動報告

資料 112-13～112-19 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上